

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病一次伝染株の初確認と抜き取りの徹底について

県内の早生タマネギにおいて、べと病の一次伝染株の初発生が確認されました。現在発生がない圃場でも、今後発生する可能性があります。

については、下記事項を参考に圃場の見回りと抜き取りを徹底するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況

- (1)1月7日に、県内の早生タマネギ圃場（11月11日移植、無マルチ栽培、品種：レクスター、夏作：水稻）で、べと病一次伝染株の発生を認めた（発生株率：0.0067%）。
- (2)1月15日に、農業試験研究センター内の試験圃場（前作の発病残さを鋤き込んだ圃場へ11月20日移植、品種：七宝早生7号、マルチ栽培および無マルチ栽培、殺菌剤無散布）においても、一次伝染株の初発生を認めた（写真1、2）。

2. これまでの気象

- (1)佐賀地方气象台によれば、平成30年12月の佐賀市の降雨日数は20日と多く、本病の多発生の条件であったことから、一次伝染が助長されたと考えられる。

【農林水産省「病害虫発生予察調査実施基準」では、「12月の降雨日数が15日以上であると春期のまん延が多いと予測される」と記載されている】

以上のことから、植え付け時期が早い極早生及び早生圃場や前作で多発生した圃場等では、今後、一次伝染株が発生すると考えられる。

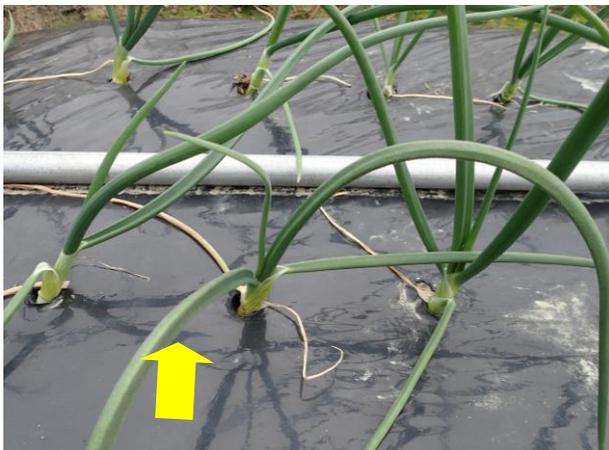


写真1 早生タマネギに発生した葉が湾曲、した一次伝染株（農業試験研究センター内圃場、平成31年1月15日撮影）

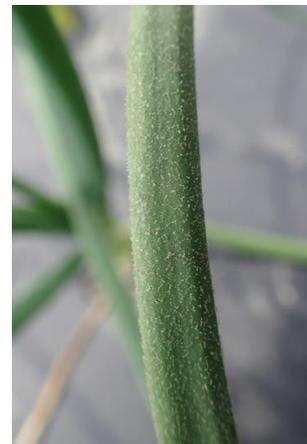


写真2 葉上の分生胞子（平成31年1月15日撮影）

3. 防除対策

- (1) 圃場の見回りを行い、一次伝染株（下記「一次伝染株の特徴」参照）を見つけたら直ちに抜き取り処分する。また、厳寒期における一次伝染株の発生は極めて少ないため、観察は丁寧に行う。
- (2) 抜き取りは晴天日の午後に行うとともに、抜き取った株はすぐにビニル袋等に入れ、市町が行う焼却処理に搬出するなど適切に処分する。
- (3) 分生胞子が見られても、厳寒期は本病の伝染が起こりにくいいため、薬剤防除は主要な伝染が始まる2月下旬から計画的に実施する。

一次伝染株の特徴

下表のように株の姿や葉色に変化が認められ、分生胞子の形成が認められる。

病徴	具体的な症状
株の姿	周囲の株に比較して、草丈が低くなる。葉が湾曲、開帳する(写真3)。
葉色	葉色が薄くなり、黄化する。光沢がなくなる(写真3)。葉が部分的に黄化することもある(写真4)。
分生胞子	条件が整った場合、葉上に肉眼で確認できる白色から灰色の分生胞子がビロード状に形成される(写真5)。



写真3 株の生育不良、葉の湾曲、葉色が薄く光沢がない症状

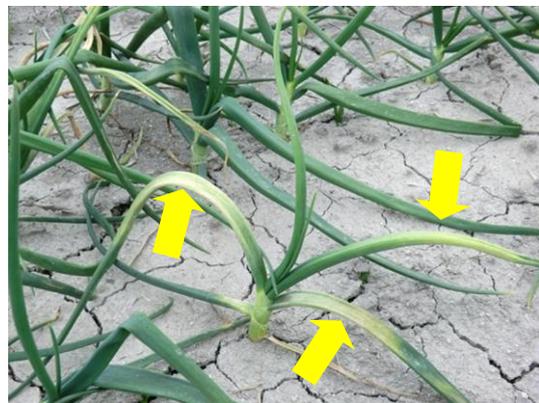


写真4 葉の部分的な黄化



写真5 葉上に形成された分生胞子

連絡先：佐賀県農業技術防除センター
病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153
FAX (0952) 45 - 5042